

高崎高校同窓会報 2023 No.57

発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-320-6024

令和5年11月30日

コロナ禍を乗り越えて 4年ぶりの米国研修



2023年7月18日 マサチューセッツ工科大学

あの頃の高高

定期戦「騎馬戦」苛烈で廃止に

ルールのない肉弾戦「危険」判断

●深夜放送で名を馳せた定期戦

高高前高定期戦は、母校愛に燃えた闘志がぶつかり合う。良きライバルとして、お互いに磨き合うための「負けられない戦い」である。定期戦は1949（昭和24）年に始まり今年77回目。勝敗に拘泥するべきではないが、今年高高が史上初の8連覇を達成し、通算成績は高高が46勝、前高24勝、引き分け3となっている。

昭和40年代、定期戦が近づくたびにTBSラジオの深夜放送「バックインミュージック」に高高生と前高生が毎週投稿し、全国に知られるようになった。高高生が「乗附の山猿」と呼ばれるようになったのもこの頃、という見方もあり、前高生の投稿で高高生は「高崎山の猿」「乗附の山猿」などののしられていた。

●騎馬戦で多数のケガ人

定期戦の一般対抗種目は時代によって少しずつ変わっていて、現在は綱引き、玉入れ、長縄跳びといった競技が含まれている。シンプルに競技だけに戦略が重要で、非常に熱い戦いとなる。

かつて、この一般対抗種目に「騎馬戦」があった。騎馬戦は昭和40年の第19回定期戦でアトラクションとして行われたのが最初で、各馬に相手校の審判を一人付けて相手方の帽子を取るといふもので、スポーツのように細かいルールも反則の規定もなく、騎馬戦は当初から肉弾戦によるトラブルがあったようだ。騎馬同士の衝突を両校とも生徒の審判では抑えることができず、徐々に苛烈さを増した。

出場生徒だけでなく、観戦する生徒もエキサイトし、騎馬戦が荒れることが「定期戦の花」となった。勝つても負けても大喝采であったそう。高高と前高の歴代定期戦実行委員長の方々が述べた「定期戦50年誌」によれば、騎馬戦の開始時間が近づくと、校庭を両校の生徒2千人が囲み、異様な雰囲気になったという。騎馬戦がエスカレートした背景について高崎高校新聞（昭和47年第106号）は「現実の欲求不満を吐き出すことができたからではないか」と指摘している。

今では考えられないが、昭和40年代の定期戦では、毎回、両校あわせて30人以上のケガ人が出て、学校の保健室で手当てを受けた。多くは擦り傷だが、捻挫などもあった。

●語り継がれる「髪の毛引き抜き事件」

「定期戦50年史」によれば、騎馬戦の対戦中は生卵をぶつける、砂や小石を投げつけるなども横行。騎馬の先頭の馬頭は両手を使えないので、腹に頭突きしバランスを崩させる。反則技は「人間魚雷」と呼ばれた。帽子を取ることよりも殴り合い、蹴り合いとなり、終わった後は、顔は腫れ、歯が折れる者もいた。服は破れて上半身は裸同然であった。

昭和44年の対戦は異様な惨状を呈したと「定期戦50年誌」で前高のOBの方が回想している。2年生の対戦の時に前高の3年生らしき騎馬が紛れ、帽子をとるのではなく、高の騎馬の馬頭を次々に狙い撃ち、胸ぐらや頭髪をつかんで引き倒して回った。前高の先生方が奔走して鎮静したそう。高高生の一人が頭の毛をむしられ、その後に行われるはずの3年生の対戦は中止となった。

翌45年も荒れ模様となった。昭和46年の定期戦は中止。昭和47年は3年生の対戦で、開戦まもなく、殴る蹴るの乱闘になり、観戦する生徒もこういう状況の方が面白く、盛んに野次を飛ばして興奮の渦となった。高崎高校新聞によれば、この時に、他校の生徒7、8人が乱入してきたという。

この年の騎馬戦で顔を殴られた高高生が入院する事態になり、数日程度で退院できたが保護者からも暴力を容認するべきではないという申し入れがあった。定期戦の後に行われた両校定期戦実行委員会、生徒会、体育教師による反省会で、騎馬戦廃止が満場一致で決まった。騎馬戦での暴力行為が、もはや看過できない状況になったのである。

騎馬戦が行われたのはたった8年間であるが、「定期戦と言えは騎馬戦」として、後々にまで語り継がれる伝説の競技になった。「伝説」と言うといささか美化するようになりかねないが、騎馬戦と深夜放送の思い出が一体となって語り継がれている。

（編集委員長 新井 重雄）



第23回定期戦での騎馬戦（昭和44年）

ご挨拶



高崎高等学校同窓会長 (71期)

坂本 正樹

会長に選任されて4年目です。任期は通常2期4年間ですので、令和6年1月27日の総会をもって退任となります。

私は30年ほど前から本部幹事を務めています。その就任を承諾したのは、同窓生としての義務感もあったものの、正直なところそれにより人脈が増えて、自営の収入にも繋がるからとも考えたからでした。しかし、年を経るごとに人脈は増えたものの、既存の市場に高校同窓会関係から算入することはかなり困難であることが分かりました。

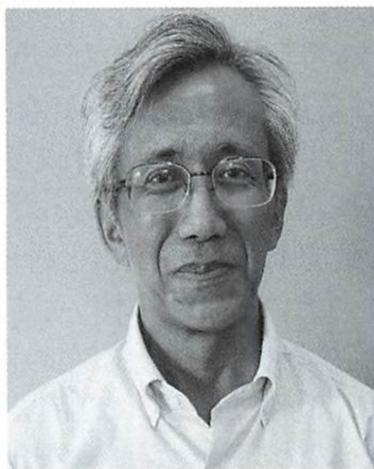
では、その後の活動を続けた理由は何でしょうか。ひとつは高校時代の思い出を大切にしたいからですが、私の場合陸上競技の思い出が8割以上なので、それだけであれば陸上部関係のOB会だけでも足りるのです。

結局、同窓会で様々な人たちと出会い、「同窓」という共通項の基に賑やかにやる

こと自体が楽しいから参加し続けたのです。また、何らかの形で母校に支援できるのもうれしいことでした。結局参加することに思惑や理屈はいらなかったのです。むしろ打算がない方が純粋に楽しめます。

同窓会報は現在2万3000部発行していますが、同窓会との関わりは同窓会報のみと言う方も多いのが現状でしょう。地理的に遠方な方も多いのですが、精神的に遠方である方も多いのでしょうか。ただ、何らかのことで会に接点を持つてみるのも良いのではないかと思います。きっと新たな楽しみや可能性が待っているものと思います。

会長退任後も通常は「顧問」という名の役職になりますが、後任の方々にはあまり余計なことは言わずにお付き合いできればと考えています。今後ともよろしく願います。



高崎高等学校校長 (81期)

小林 智宏

「伝統よ更に栄えあれ」第71回翠巒祭のお客様を見送る実行委員の大合唱が青空に響き渡りました。来場くださった大勢の方々への感謝と同時に、仲間と共にまさに伝統を発展させようと奮闘し成し遂げた万感の思いが伝わってきました。

各種の行事が他校では軒並み中止される中、本校は多くを遂行してきました。契機は3年前の第68回翠巒祭でした。全国一斉の臨時休業で中止を余儀なくされたことにより意義を再認識し、学業とともに行事等の諸活動も最大限実施していくこととしたのです。試練といえるその後の過程で、同窓会の皆様の温かく力強い御支援は心強いことでした。とりわけ「先輩、教えてください!」を充実させながら継続できたことなど県下に類例なく、全国でも希少なことです。SSH事業においても、OBネットワークにより充実したメンターシステムが実現し、質の高い探究活動が自発的・継続的に生じる「学びの生態系」ともいべき循環が

生まれてきました。先輩から後輩への自主の伝統が、課題研究等の新しい学びにおいても築かれつつあるのです。

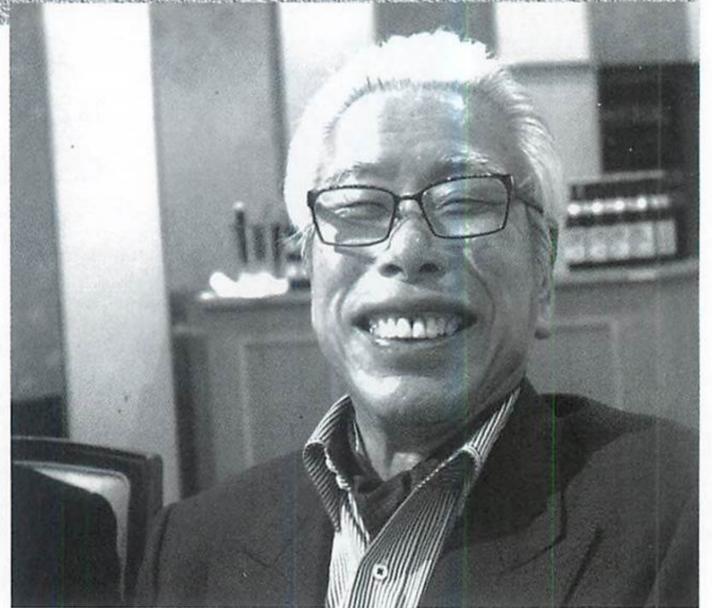
コロナ禍の影響として、全国的に自己肯定感の低下等が指摘されています。本校でもそうした影響は見受けられますが、できることを最大限行ってきた結果、何事にも前向きに臨む生徒が多く、現役合格9割・進学8割超という進路実績にも繋がっていると感じます。部活動も物理部生徒の国際学生科学技術フェア出場を筆頭に舞台を全国、世界へ広げ、躍動しています。今年度の第77回定期戦では、8連勝の大記録を遂げました。そして、生徒はこれらの結果にも満足することなく、次の目標に向かっていきます。

同窓会の皆様の物心両面に渡る御厚情に心から感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬ御指導、御支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

『翠巒』よ永遠に、 そして…

元本部幹事長

田端 穰



『翠巒』歌詞への疑問

応援歌「翠巒」(以下、『翠巒』とする)は高中・高高と歌い継がれ、太平洋戦争後の約10年間は校歌としても歌われて、新・旧の同窓生をつなぐ唯一のツールとして、高高オリジナルのものとして親しまれてきた。この歌詞について、正確な資料(別記資料-*は筆者が追加)に拠りこれが旧制第八高等学校(八高)のいくつかの寮歌から集成していることを「翠巒考」(京浜同窓会誌「翠巒」第18号昭47)で指摘したのは西村正守(40期)である。西村はこの事実困惑しながらも、歌詞はオリジナルではないが『翠巒』はすでに高中・高高の「血肉」であって「借用ではない」として、「その伝承由来とそれにまつわる先輩諸兄の青春譜を再生しえぬだろうか」と結んでいる。このとき西村は『翠巒』の作者が村田鎮虎(19期)とは知らず、「大正末期の二十回生か」と推測しているがそれ以上はリサーチしていない。ただこれは高崎ではほとんど読まれる機会はなく、この指摘が高崎で大きな話題となることはなかった。

「フルーツは甘い、ルーツは苦い」をめぐって

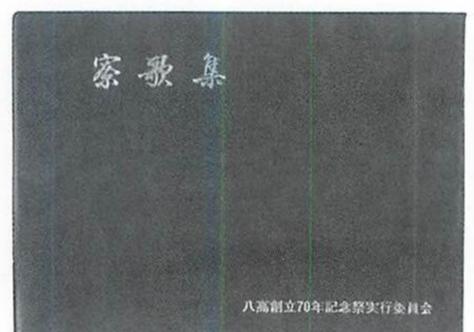
高崎で『翠巒』をめぐって喧しくなったのは、池田瑛(43期)の「フルーツは甘い、ルーツは苦い」(第43期同期会誌「のっつけ」第3号昭和56)から始まった。池田はその文中で八高出身の知人と会食をした際に、隣席の本校卒業生の宴席から流れてきた『翠巒』を耳にして、彼が「あれは(私)の学校の歌だが、何方も知らない方ばかりだし?」と怪訝な顔をされたことから、『翠巒』のルーツ探しを始めたこと、そしてそれが八高の寮歌・応援歌の「そっくりさん」だったことに衝撃を受け、ルーツ探しの気力を失ったことを吐露している。そして、「すでにこの歌が半世紀以上も歌い継がれ、我々の血となり、肉となっており、これ以上このルーツ探しを進めても無意味ではなからうか」と結んで、同期の方々の意見・感想を求めている。これに翌年の同誌第4号で讃岐和家(43期)が『池田くんの「ルーツは苦い」について』で、大正8年以来歌われている歌を八高関係者に認知してもらうことに意味はなく、「これまでどおり歌えばいいが、歌詞の作者がいるのであれば、今後歌詞

及び曲を印刷し配布する場合には、高中・高高の名誉のために借用または改作の事実を明記し、学校史にもその事実を記載すべき」とする意見を述べている。その後これが同窓会常任理事会等で話題になると、『翠巒』をめぐる議論が沸騰した。しかし、讃岐の意見に同調するものではなく、『翠巒』は高中・高高で60年以上(昭和57年頃)も歌い継がれ、高中・高高の血であり、肉となっており、ルーツがどうあれ問題ないとするもの一辺倒で、「公的にこれを借用、改作と認めることは、高高の歴史に盗用の汚名を遺すことで認められない」とか、何の根拠も示さず「これが盗作なら八高寮歌だって盗作だ」という暴論まで飛び出す始末。さらに『翠巒』作者村田の擁護論が村田の同期生から続出し、讃岐の至極穏当な意見は「高中・高高民族主義」に吹っ飛ばされてしまった。

どうしてもっと冷静に対処できなかったのだろうか。これは池田の問題提起に対する反発で、感情的になってしまったように思える。池田は「半世紀も伝承されて来た歌は、その起源が仮令、憧れからの盗作(?)であったとしても、同じ若者として、同じ感激であったろう!」と村田に理解を示しながらも「盗作(?)」という表現を使い、また、西村ほどには原詩を詳細に示さなかった。そのため自分たちの愛する『翠巒』の歌詞が借り物(どれほど酷似しているかよく分からないまま)だったと知ったショックとそれを素直に認めたくないという気持ちが、高中・高高の立場のみをよとする論理に陥ってしまったのだと思う。また、村田の同期生達にしてみれば、村田の努力が盗作呼ばわりされることに我慢ならなかったのだと思う。

「翠巒」制作の経緯

この『翠巒』の制作の経緯については、公式には生徒会誌「群馬」(大正8年12月発行)に「○応援歌 会員の発議にて夏期休暇中所謂応援歌を募る、應じたるもの



松岡重三郎、清水元壽、村田鎮虎、手塚義夫、信田俊夫等あり、何も同種度の出来栄にて特に傑出したるものなし、因りて協議の上村田の『翠巒』を認可し秋季運動会より之を唱ふことゝす。」とあり、あと『翠巒』の歌詞が続いている。(現行の歌詞とほとんど同じだが、一部異なる)このことから『翠巒』の制定計画が極めて場当たりの大雑把なものだったことが分かる。制作期間があまりにも短く、ほとんど制作のための準備ができなかった、しかもこれに当たった生徒は現在の高校2年生の年頃であり、専門家でもお手上げの条件下での制作であった。この条件下で大正8年(1919)までの八高寮歌・応援歌10数曲の中から語句を選択し、一定のストーリー性を持った歌詞を確定し、作曲までやってのけるのは、至難の業であって、これを短期間にやり遂げた村田の才能は超凡なものであることが分かる。このことから、村田の能力にはリスペクトすべきであるが、一方、原詩の八高寮歌には明確な作詞者がおり、それが八高寮歌集として公刊されて誰でも目にすることができ、資料にみるとおり『翠巒』のほぼ全編が八高寮歌等からの借用であることを知ってしまったのが現状である。制作後100年以上経過しており、すでに著作権は消滅してしまっているが、原詩作者に何らかの敬意を表するのは礼儀であろう。そこで讃岐の意見のごとく、校史等に制作事情を書き添えることは必要なのではないだろうか。これが決して村田を貶めることにはならないと思うし、高中・高高的恥にもならないと思う。

この一連の論議は昭和56年から翌年まで続いたが、その顛末については、田中順(51期)の「翠巒再考」(同窓会報第18号昭和58)に詳しい。彼は多くの先輩方から直接見解を聞き取りそれを紹介しているが、ほぼ異口同音に先述のとおり『翠巒』血肉論一辺倒であった。ただし、一定の論議の後清水元壽(19期)、天田利夫(19期)、高橋邦雄(28期)、讃岐(43期)により、常任理事会に新しい応援歌の制定についての提案がなされていることも案文を示して紹介している。その後、この提案が同窓会の機関でどのように処理されたか、寡聞にして聞いていない。

応援歌とは

さて、『翠巒』が制定されたのは大正8(1919)年であるが、この時代は旧制高等学校の学生達が弊衣破帽で寮

歌・部歌・逍遥歌を高唱しながら朴歯を鳴らして闊歩する姿が中学生の憧れであった。『翠巒』もその頃の雰囲気そのものであり、大時代的な感は否めない。その頃の応援歌は試合中の随所で歌われるものでなく、対外試合の始めとか、それに赴く選手達を激励する壮行歌のようなものであった。その後明治神宮球場ができ(大正14年)、東京六大学野球がそこに多くの観衆を集め大人気を博するようになる、応援歌は多くの応援者が一体となって選手を鼓舞し勝利を目指すため、試合の状況の変化に対応して随時歌われ対抗試合には不可欠のものとなった。そうすると旧来の高等学校風応援歌では対応できず、新たなスピード感ある応援歌が求められるようになった。そして、昭和初期野球人気の頂点にあった東京六大学リーグ戦に新しいスタイルの応援歌が生まれた。慶応の「若き血」、早稲田の「紺碧の空」である。こうして応援歌は続々と生まれスポーツシーン、特に野球の試合には不可欠のものとなり、最近ではプロ野球球団にも応援ソングが生まれ、各地の高校にも新感覚の応援歌が生まれ試合を盛り上げている。こうした観点から『翠巒』を考えてみよう。他の旧制高校の寮歌・応援歌と同じくスポーツ応援には不適で、めまぐるしく状況が変わる試合では、それに即応して応援者一体となって選手を鼓舞し勝利を目指す役割をはたしているとはいえない。とはいえ「翠巒」の語は、「翠巒育英会」「翠巒体育会」「…翠巒会」等高崎高校と同義語となっており、『翠巒』が新旧の同窓生が肩を組んで高中・高高的結ぶ絆を確かめ合う唯一のツールとなっていることを鑑みれば、『翠巒』は今後も歌い継ぐべき高高応援歌として尊重すべきだと思う。

しかし、『翠巒』が生まれて最早100年、未来に飛びたつ高高生を応援するもう一つの応援歌があってもいいのではないか。現代の生徒諸君は音楽的才能はすこぶる高レベルであり、明るく、テンポよく、どんな戦況にも対応できる応援歌を作ることは難しいことではあるまい。『翠巒』と同じように生徒による新感覚の応援歌が生まれてもいい時期にあるのではないか。学校・同窓会・生徒会等関係者が何らかのアクションを起こしてくれることを願う。新たに生まれた応援歌が甲子園の天をどよもす日を、そしてその歓喜の中に我が身がいられることを願っている。『翠巒』を校歌として歌った世代からの切なる希望である。

(文中敬称略)

資料

(大正8年寮歌「翠巒影を」稲葉貞二作歌)

翠巒陰を浮かべては
流水長き思いあり
紫紺の霞打ち渡す
遠山夢の姿にて
ああ名も床しき瑞穂丘
永久の心の故郷よ

(柔道部歌・制作年不明・中谷武世作歌)

*一 扶桑の岸に寄る波の

栄うたひて二千歳
今乾坤の曙に
桜ほのかに使命の香

三

而中原の矢叫びに
脾肉嘆ぜし幾年ぞ
見よ今稚亀雲を得て
上る飛躍の第一途

*五

大牙揺々小波の
寄する近江路過ぎ行けば
比叡に暮色蒼うして
征歌催ほす感多少

六

来たらむ戦想いつつ
北斗を浴びて佇めば
故郷に闌け行く風霜に
さすが栄枯ぞ偲ばるる

(大正2年寮歌「曙雲」中島信一作歌)

五

前を望めば渺々の
学海遠く広がりて
九天の碧ひたしうち
風雲次第に相呼びて
怒潮となりてうづまげど
胸や千仞わだつみの
八重の血潮の高湧きで
進む健児の意気たかし



私の仕事

83期

企業経営に生きる「3F精神」

古河電気工業株式会社 代表取締役社長

森平 英也

高崎高校での思い出

本校46期卒でもある私の父は高校教諭(生物を教えていました)で、私が幼少の頃、高崎高校に赴任していました。自身は経験も無いのにサッカー部の監督になり、昭和43年の福井国体に群馬県代表で出ています。実は父の弟(私の叔父、本校64期卒)もサッカー部OBで、私が生まれた昭和40年の卒業です。その二人に影響を受けたのだと思いますが、小さい頃から「高高サッカー部に入る」と勝手に決めていました。幸い、1981年春に入学。サッカーはそれまで未経験でしたが、早速入部。足がちよっと速く、走り幅跳びが結構跳べて目が良かったことから身長が168cmしかないのにゴールキーパーに選ばれ、3年間をそのポジションで過ごしました。当時のサッカー部は先輩や仲間にも恵まれ、群馬県代表選手もいた強い時期で、私が1年の冬に全国高等学校サッカー選手権の群馬県代表になりました(勿論、私はメンバーではありませんでしたが)。

また、私が3年の春の群馬県高校総体でも県代表(第2代表でした)になって関東大会に出場。今回はレギュラーでした。1回戦で埼玉県代表の武南高校に1-0で負けましたが、結構やれた感があったことを覚えています。ところで、古河電工のサッカー部は、日本サッカーリーグで何度も優勝し、日本のクラブチームで初めてアジアクラブ選手権を制した名門で、1993年のJリーグ発足時から参加したジェフユナイテッド市原(当時)の母体ともなりました。入社前の私は当社の名前をサッカーで強い会社というくらいしか知りませんでした。が、大学院2年の春、就職しなければと思っていた時に当社の奨学金を受けていた大学の友人から紹介され採用面接を受けたというのが当社との出会いでした。

古河電工について

古河電工グループは、古河市兵衛を祖とする古河財閥系企業の一つで、栃木県の足尾鉾山で銅鉾石を採掘し、精錬して銅として販売する古河鉾業(現在の古河機械金属株)から分派して1884年に創業した会社です。間もなく創業140年になります。足尾で作った粗銅を純銅や銅合金に加工したり、引き延ばして電線にして販売したりすることが祖業で、工場は足尾に近い日光や横浜などにありました。以来、送電や情報通信用の電線(ケーブル)に加えて、光ファイバや光ケーブル、光・無線

通信機器、ゴムやプラスチック製の電線の被覆技術から派生したプラスチックパイプや発泡製品、半導体の加工に用いる高分子シート、めっき技術を活かしたりチウムイオン電池の負極や電子回路基板などに用いる銅箔、銅の熱伝導性を活かした放熱製品(スマホやPCにも入っています)、自動車内のワイヤハーネスをはじめとする電装製品など、「メタル」、「ポリマー」、「フォトニクス」、「高周波」の4つの技術力を核として、情報通信やエネルギーなどのインフラ分野、自動車部品分野、エレクトロニクス分野へ、多岐にわたる技術・製品・サービスを提供する企業グループとして成長してきました。当社グループの製品は社会の至る所にあるのですが、殆どが目立たないので、一般の方にはあまり知られていないと思います。そこで、本紙面をお借りして少々紹介させて頂くことにします。

古河電工の事業領域

●情報通信ソリューション事業

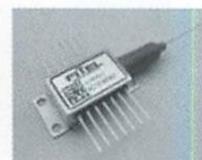
情報通信インフラに関連する製品の製造・販売および情報通信ネットワークの設計・施工・サービス等を行っています。光ファイバと無線を基軸にモバイル通信システムが5G(第5世代)へ移行しつつある現在、「超高速・大容量」「低遅延」「多数端末同時接続」へのニーズに対応する製品群・サービスを開発し拡販を進めています。



光ファイバ



光ファイバ・ケーブル



光デバイス



ルータ・ネットワーク機器

●エネルギーインフラ事業

超高圧、高圧、中低圧の電力ケーブルや機器等の製造・販売および敷設を行っています。カーボンニュートラルの実現、再生可能エネルギーへの転換を見据え、社会を支える電力の安定供給に向けた送電網の強靱化に貢献しています。



超高圧・高圧地中送電線・工事



海底送電線・工事



中低圧電線



配電部品・架空送電部品

●自動車部品・電池事業

ワイヤハーネス、ステアリング・ロール・コネクタ、鉛バッテリー状態検知センサ等の自動車部品事業および上場子会社古河電池(株)による電池事業から成ります。更にEV化や自動運転、5G通信連系などに関する車載製品の開発も進めています。



ワイヤハーネス ステアリング・ロール・コネクタ 鉛バッテリー状態検知センサ 自動車・産業用電池

●電装エレクトロニクス材料事業

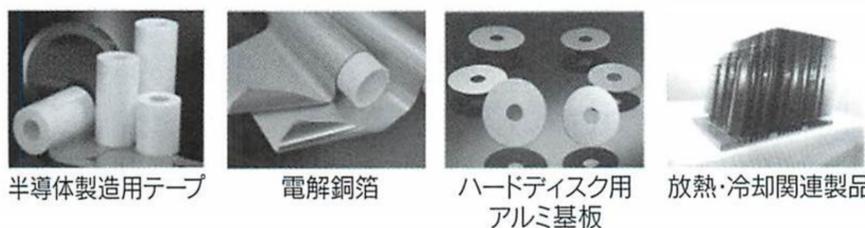
主に自動車部品や電子機器材料用の銅製品を製造・販売するのがこの事業です。例えば自動車市場での「電動化」「自動運転化」「IoT」「AI」による情報や知識の共有化の増加により、通信・制御デバイスやセンサ等の市場が拡大し、素材にも多様な特性が求められています。そのニーズに合致する製品を開発し提供しています。



銅線・アルミ線 リボン線 TEX(3層絶縁電線) 伸銅品・薄板(条)

●機能製品事業

電線製造の技術から派生したプラスチックや銅、アルミの加工技術を用いた各種製品を製造・販売しています。例えば廃ポリエチレンを再利用したケーブル埋設用管路(エフレックス®、グリーントラフ®)、半導体加工プロセスで使われる高分子テープ、データセンタやPCなどのハードディスクに使われるアルミ基板、リチウムイオン電池の負極材や電子回路に使われる電解銅箔、メモリーチップなどの放熱に使われるヒートシンクやヒートパイプなど、様々な社会ニーズに対応した製品群やソリューションを提供しています。



半導体製造用テープ 電解銅箔 ハードディスク用アルミ基板 放熱・冷却関連製品

●新事業

最近話題の核融合やMRIなどに用いる超電導線材、家畜のふん尿などから発生するCO₂やメタンガスから液化プロパンガスを生成するための触媒(ラムネ触媒®)、通信用光源から派生した産業用高出力レーザ加工装置、ドライブレコーダなどで撮影した映像・画像から道路や鉄道インフラの状態を検知しデータ化して提供する事業(みちてん®、てつてん®)など、今後の社会ニーズにマッチした製品群やソリューションの開発、事業化を進めています。

古河電工グループ ビジョン2030

当社グループが2030年に向けて目指す姿として、「地球環境を守り、安全・安心・快適な生活を実現するために、情報/エネルギー/モビリティが融合した社会基盤を創る」という「古河電工グループ ビジョン2030」を策定し、この達成に向けて日々取り組んでいます。

情報分野では、「高速・大容量」「低遅延」「多数同時接続」といった5Gの特長に加え、「省電力」「安全・信頼性」「自律性」「拡張性」を備えたBeyond 5Gの実現に広く貢献していきます。エネルギー分野では、カーボンニュートラルと資源循環型経済を実現するため、当社のバリューチェーン上のCO₂の削減だけでなく、排出されたCO₂を新たなエネルギーなどに変換する技術開発も進めています。モビリティ分野では、EVやコネクテッドカー、自動運転技術の進化に対応する車載部品などを提供することでその進化に寄与していきます。また、超高齢化社会の到来によって、健康寿命の延伸や労働人口の減少に伴う社会インフラの効率的な維持管理が喫緊の課題となっています。当社グループが有する製品や技術をライフサイエンス分野や社会インフラのデジタルトランスフォーメーション(DX)にも応用し、安全・安心・快適な社会の実現に貢献していきます。

当社グループは、「真に豊かで持続可能な社会の実現」を基本理念として掲げ、創業当初から社会インフラ整備の発展を支え、世界の持続的な発展に貢献してきました。今後も、素材力を核とした絶え間ない技術革新や多様なステークホルダーとの共創を通じて、持続的な成長を目指し、SDGsの達成にも貢献してまいります。

私の仕事

私は、16代目の古河電工社長として、当社グループの伝統を守りながら更に発展させることが使命だと思っています。実は、当社グループが有する前述の4つの技術要素(「メタル」「ポリマー」「フォトニクス」「高周波」)は極めて応用範囲が広く、社会課題の解決にも有用です。また、社会インフラ構築に係る分野を事業基盤としてきたことから、国や地方自治体を含む多くのお客様との取引を通じて多方面に発展を遂げてきました。今後、社会や事業環境の変化は更に加速し、広範囲にわたって生じると考えられます。それに対応し社会課題の解決に不可欠な企業グループとして持続的に成長していくために、当社グループの現有リソースを最大限に生かしつつ補充強化し、従業員のやる気を最大限に引き出しながらOne Furukawaで積極的に変革に挑んでいくことが大変重要で、その歩みを確実に進めることが私の仕事です。

私は、「ファイティングスピリット」「フェアプレイ」「フレンドシップ」という3F精神を高高で学びましたが、企業経営においてもこの精神は通低すると思っています。また、高高の校歌には「未来よ燦と輝け、伝統よ更に栄あれ」という歌詞がありますが、当社グループもこうありたいと、この立場になってつくづく思っています。父や叔父に感化されたことで、いい学校で学ぶ幸運を得られたこと、そして今があることを、これを書きながら改めて認識している次第です。



写真左上

青春高崎高校

元学習塾・絵画教室経営

神田 昇

君に会いたい!皆で君を待っている!皆、君のことを覚えているよ…。そんな訳ないか、そうだよ、覚えてないよ。…でも君は同じ部活の子を、隣の席のクラスメートを、はっきりと覚えているだろ。

今年で我々は喜寿。あと何回、同期会が開けると思う?

最近、〇〇君が亡くなった、〇〇君が大病だってよ、そんな話ばかり。そんな時は昔を思い出そうよ。

高校生の時、白線を二本入れた学帽をかぶり、下駄をはいて、ズックのカバンを肩から下げて、バンカラ気分を通った乗附道。あの頃は、皆、夢を持って輝いていた。

同期会に一度も出席していない人、暫くぶりの人。

金持ち?社長?はたまた年金暮らしの平凡なジジイ?

今のポジションなんて関係ない。そうだよ、俺たちは64期の同級生だ。60年前、確かに俺たちは育春の真っ只中にいたんだよ。今度の同期会に参加して、隣に座って酒を飲もうよ。高崎市長富岡賢治君と肩を組んで校歌を歌おうよ。残り少なくなった我々の人生、仲間と会って輝きを取り戻そうよ、最後の悪あがきをやろうぜ。

そうだ、青春時代の思い出は同級生だけではないよね。

あの先生のこと、恩師のことを覚えているかい?

ニックネームを紹介しよう。(敬称路、失礼を乞御容赦)

校長先生 伊藤順。教頭先生 横山嘉一郎。

●1年 国語・清野幸雄(エンマ)、漢文・鈴木淳(ウラナリ)、英語・横山隆(小ガチ)、網中正昭(アミチャン)、数学・横山嘉一郎(ガチ)、吉岡武彦(ヨシオカ)、戸谷卓也(トヤ)、社会・篠原昭(チュウキョウ)、生物・田島英雄(テンノウ)、体育・角田吉弘(ターザン)、今井孝造(クマ)、美術・塚田亨(ピーチャン)

●2年 国語・塩浦徳三郎(カジカ)、英語・佐藤欣也(キャンデー)、数学・大沼与四郎(オオヌマ)、倉上滋(クラガミ)、世界史・中村幸生(変な外人)、化学・永沢恵一(キョウケン)、

体育・内田光之(ベース)、今井孝造、音楽・永長信一(ウマ)

●3年 科学・田島六十勇(ロク)、国語・萩原伝(デン)、松本悦治(エッチャン)、漢文・鈴木淳、英語・岡沢正男(メチ)、日本史・竹林文彦(チクリン)、人文地理・高橋正親(マサチカ)、体育・清水貞保(ポテ)今井孝造

今、私たちがいるのは先生方のお陰、感謝!感謝!

上文はこの秋の同期会に向けた案内文の下書きです。

私は今、64期の事務局員をやっていて、年3回の呼びかけ文を書いている。

先生のアダナ等なぜ詳しいかというと、私は高校時代の資料を大量に持っている。(正確に言うと持っていた。母校に役立つような資料?は数年前、同窓会本部に寄贈しました)。教科書、ノートをはじめ、学生証、図書カード、ブルキ製の自転車通学許可鑑札、翠巒祭の資料、前高合同新聞、卒業記念の校章の入った風呂敷、学校記念雑誌、…etc,etc,etc。なんと高校受験票まで持っている(私の受験番号は209番)。

64期の仲間との最高の思い出は、我々が高中高高全体同窓会の当番期だった時、皆の協力により、全体総会を無事終了、その後64期の懇親会に突入。

「物書きの好きな私」は、丁度その時、私の唯一の自費出版本『青春18きつぷ殺人事件』を完成させていた。

本を積んだ私の前に笑顔の同級生の列。一人一人にサインをして、すっかり作家気分になっていた。

この感動を与えてくれた仲間の皆を忘れない。

64期BRAVO! 高高FOREVER!



同期の友

東和銀行 頭取

江原 洋

私は昭和47年高崎高校に入学した。当時の高高は旧校舎であったが、伝統と風格のある高校であった。通学は下駄と白の肩掛けカバンで、何となくバンカラ風で妙に気に入っていた。

3年間の高校生活をより充実したものとするために、剣道部に入部した。剣道は中学ではやっていなかったの、初心者だった。なぜ入部したのか。当時、私の父親の同僚(高崎鉄道管理局(当時)の剣道部に在籍)がよく自宅に遊びに来ていたが、その人に心身修養のためだと言って剣道を薦められたからである。

余談ではあるが、当時、日本テレビで放送されていた、前千葉県知事で俳優の森田健作主演の人気テレビドラマ(剣道を題材にした青春ドラマ)の影響もあったかもしれない。

このような理由で、剣道部に籍を置くことになったが、やはりと言うか、高校生活の大半はクラブ活動が中心であった。

剣道部の同期(川口君、赤尾君(故人)、飯野君、杵渕君、佐々木君)とは、旧道場での汗にまみれた苦悩(?)や翠巒祭での歌合戦で高崎女子高校の女生徒からもらった花束、3連勝した前橋高校との定期戦など、今思い返しても懐かしい思い出が多い。練習帰りに剣道部の同期の皆と行った、正門前の店「真下」(今はもうない)の栗饅頭の味は、忘れられない味だ。

いずれにしても、初心者であった私が、何とか3年間剣道を続けることができたのは、剣道部の同期の仲間との絆、同期の助けがあったからだと思っている。剣道で学んだ「礼に始まり礼に終わる」この言葉は、今でも私の心の糧になっている。

剣道部だけでなく、同期の友(私が勝手に思っているが、同期の友と呼ばせていただく)との思い出はたくさんある。特に、同じクラスになった同期の友との思い出は多い。中でも、

クラブ活動がひと段落ついた3年時に同クラスになった同期の友は、特に印象に残っている。当時、クラスの出席率は低かったが、今は気鋭の弁護士になっている長井君、出席率も良く、元群馬弁護士会会長の弁護士橋爪君、野球部のエースで、今は群馬県酒販組合理事長として活躍している岡村君、kinki kidsのカメラマンをやった写真家の平賀君など、個人名を上げればきりが無いが彼らとの思い出は多く、今でも親しくさせていただいている。

高高卒業後、大学では剣道部ではなくスキー部に入った。1年の半分は雪に閉ざされる環境もありスキーをやった。剣道の腕前はイマイチであったが、スキーはかなり上達できたと思っている。

大学卒業後、今の職場である東和銀行に就職した。東和銀行についてちょっと触れさせていただく。東和銀行は前橋に本店を構える地元の銀行で、群馬県内はもちろんであるが、県内よりも埼玉県、栃木県、東京都に多くの営業店を構える地方銀行である。

地元の企業に就職したので、高崎高校の同期とは今でも親しくさせていただいている。就職後に親しくさせていただいている同期もたくさんいるが、同期の友には、今でも公私にわたり大変お世話になっている。彼らとは、同期会や飲み会・ゴルフなどで懇親を深めている。しかし、ここ3年間、コロナウイルスの影響で飲み会や同期会などの懇親会ができていないことは本当に残念に思う。

ただ、コロナ感染もだいぶ落ち着いてきたので、これから懇親の機会が再開され、懇親の場が増えることを楽しみにしている。

同期の友は、私の生涯の宝である。これからも末永く交流を大切にしていきたい。



「命どう宝」の精神で

株式会社高崎共同計算センター
大阪営業所 所長

森 隆治

高校の3年間はスキー・スケート部に所属し、競技スキーに没頭していた事を思い出す。シーズンオフは観音山をランニング、護国神社でイメージトレーニングに励み、夏休みはスキー道具を購入する為にゴルフキャディーのアルバイトを…(アルバイトは禁止だったのかも…?)。シーズンになると、水上や片品方面でインターハイや国体予選などに参加したが、山手の高校には一切敵わなかった。大学に入っても経済学部スキー学科というべく競技スキーに打ち込み、群馬・長野など雪山を連日、合宿や大会などで毎日過ごしていた。高校・大学の7年間はスキーを愛し、雪山を愛する7年間であった。

その後就職し、数年が経つとあちこち出張するようになり、そんな中、沖縄に通うようになった。行くたびにお客さんから「お帰りなさい」と…。心温まる思いである。全国ほとんどを出張したが「お帰りなさい」と声を掛けられたのは沖縄だけである。人も気候も温かく朗らかで、すぐに「沖縄病」に感染、今まで冬を愛し、雪山を愛していたのが正反対、夏を愛し、海を愛し、沖縄を愛するようになった。

群馬に居ながら、三線(沖縄三味線)を習い、エイサーを踊り、オリオンビールに泡盛を嗜み、沖縄のものなら何でもこよなく愛するいわゆる「沖縄病」に罹患してしまった。中でもエイサーは高崎にある『群天星(むりていんぶし)』というエイサー団体に所属し、毎年正月に高崎駅前で行われる「だるま市」や夏の高崎まつりなどの各種イベント、コロナ前は老人ホームへの慰問など、週末はほぼ毎日エイサーに明け暮れていた。(現在は大阪転勤中につき、休会中)

エイサーは沖縄の旧盆の最終日に先祖の霊をあの世に送り出すために踊られる踊りで、各家の無病息災や家内安

全、五穀豊穡を祈って踊られるようになった。勿論、我々も沖縄の伝統芸能を尊び、平和を願い、エイサーを演舞するのである。また、見る者の魂を震わせ、太鼓の音や踊りの勇壮さから無条件に胸を打たれ、少し前にあった某放送局の朝ドラのように“ちむどんどん(沖縄方言で胸がわくわくする気持ち)”するのである。

沖縄には「命どう宝(ぬちどうたから)」という言葉があり、この言葉は琉球王国最後の国王、尚泰王が残した言葉で、沖縄の非暴力での抵抗運動の思想であり、かけがえのない命の大切さを伝える言葉である。この言葉は先の大戦を経て現在に至るまで、沖縄の人々の心に刻み込まれている。先の大戦では日本唯一の地上戦があり、20万人以上の方が亡くなられている。現在も沖縄には30ヶ所もの米軍基地があり、島の約2割の面積を占めている。日夜米軍機の爆音が鳴り響き、色々な問題が残されている。世界を見渡してもロシアによるウクライナ侵攻が起き、その悲惨な映像を連日ニュースで見るたびに胸が締め付けられる思いである。

現在は大阪転勤中、定年まであと3年。いつまで大阪にいるか未定であり、また体力的にエイサーを続けられるかわからないが、高崎に戻った際には引き続きエイサーをやりたい。沖縄を思い、“ちむどんどん”しながら太鼓を叩きたいと思う。平和を願いつつ…



継続するってしんどい。



一般社団法人KING OF JMK
代表理事

渡邊 俊

「今日の為に、伊香保で合宿してきました！」
「3人お揃いのユニフォーム作ってきました！」
「1週間、酒とタバコを断って今日を迎えました！」

2013年2月23日。当時銀座の歌舞伎座の前にあった群馬のアンテナショップ “ぐんまちゃん家”で『第1回KING OF JMK～おとな達の上毛かるた日本一決定戦～』という大会を開催した。これらはその日の朝一番に、大会に参加する選手の方々が私に向かって発してくれた言葉である。

上毛かるたの初版発行は1947年。戦後間もなく作られたこのかるたは、その翌年には早速子供たちの大会が開催され、以来毎年育成会の皆様の手で継続されてきた。その為、当時の上毛かるたの猛者達は既に立派な大人になって今や日本全国、いや世界各国に散らばっているはずであり、この人達を集めて真の上毛かるた日本一を決めるイベントを開けば面白いのではないかと考え企画したのがこの大会である。

そしてその大会を群馬ではなく敢えて東京開催とすることで、県外の方々にも上毛かるた競技を見てもらう機会となり、かるたを通じて群馬の魅力を発信できるのではと考えた。当時私は自動車メーカーでマーケティングの仕事をしていましたが、地域魅力度ランキングで常に最下位争いをしている群馬県の為、マーケッターの端くれとして何か自分にできることはないか？と思ったのだ。

ただ私の頭の片隅には、『群馬ローカルである上毛かるたの全国大会を、東京のど真ん中である銀座で開催する』というそのバカバカしさにまず笑っていただきたいという思いもあった。大都会である銀座に群馬県民だけが集まって、上毛かるたで盛り上がっているというその滑稽さを認めて欲しかったのである。

ただ当日の参加者たちは全然違った。いくら子どもの頃以来とはいえ、かつての上毛かるたの猛者たちは“ガチ”でこの場に臨んでおり、試合前には円陣を組んで気合を注入す

るチームもいれば、判定に戸惑った審判に対してギリッとした目つきで睨むチームもいる。もちろん主催者である私から、合宿してきて下さいとか、酒とタバコは断ってきて下さいなんて頼んだ覚えもない。参加者たちの真剣さに若干の恐怖心を感じたが、群馬県民にとって上毛かるたというのはまさにそういうモノであるし、これこそが世界に発信すべき唯一無二の群馬県民の姿なのだと思う。

第1回開催から2023年でちょうど10年。コロナ禍で数年間開催を断念せねばならない期間があったとはいえ何とか継続し、今年10月に第8回大会を開催した。もちろんここまでできたのは私ひとりの力ではなく、一緒に大会を運営してくれたスタッフの方々のおかげである。しかし反面、1つのことを続けていくというつらさも時折感じている。開催資金の確保については毎年の課題であるし、参加した選手の皆様に『また来年も参加したい！』と言ってもらう為に何をすべきかについても日々悩んでいる。そんな事をしていると段々疲れ果て、毎年大会が終われば『もうこれっきりにしようかな』とも考える。しかし、毎回優勝チームには次回大会の優先出場権を贈呈することで、自分に対して『来年もやるんだからな！』と言い聞かせ何とか継続している。

別にこのイベントを辞めたからといって何か起こる訳ではなく、更に言えば上毛かるたそのものが群馬から無くなったからといって地球が滅ぶ訳でもない。おそらくごく普通に日々が流れていくだけだと思う。しかし、戦後に上毛かるた制作を手掛けた浦野匡彦先生の遺した、

『上毛かるたの真の価値は、100年後の未来でわかる』

という言葉が妙に気になって仕方がない。上毛かるたが発行された年から数えると、100年後というのは2047年。自分自身がそこまで頑張れるかどうかはさておき、そこまでKING OF JMKを継続させるには何をすべきかと常に考えている。



SSHとの21年

神戸大学大学院理学研究科

坪井 元樹

(旧姓 渋川)

このたび、恩師の川崎洋一先生(79期)からのご推薦を経て、同窓会の方から執筆依頼をいただき、僣越ながら筆を取った次第です。今から21年前の平成14年(2002年)入学の我々104期を語る上で外せないのは、やはりその年度から始まったスーパーサイエンスハイスクール(以下、SSHと略記)事業だと思えます。当時は教員側も生徒側も見切り発車な状況で、1,2週間の“幻のクラス”を挟んだ後に、改めてSSH課程専用のクラスが2組編成される運びになりました。そんな中、私も幸いなことにこのSSH1期生の末席に名を連ねることになり、新聞部での活動と併せて、担任(後に学年主任)の塚越究先生(73期)を筆頭とする多くの名物教員、素晴らしい先輩諸氏、級友、後輩達にも恵まれ、苦しくも楽しい高高での3年間を過ごすことができました。

その思い出は書き連ねるだけで、恐らく本一冊以上になってしまうでしょう。なので詳細については、それについて少し語っている私の講演動画『課題研究における高校数学の学習法と研究法』を紹介させていただくに留め、ここでは割愛させていただきます。ただ一言だけ申し添えるならば、それは恐らくモノの本で読むような、古き良き旧制の中等学校、高等学校に近い雰囲気だったように思います。思えば明治生まれの曾祖母も、昭和の一桁の祖父もまだまだ健在だった頃であり、今は遠き歴史の彼方の「残り香」を留めていた最後の時代だったのかもしれません。

そんな3年間を経て、高高を卒業したのは今から18年前の平成17年3月で、それから京都、福岡、大阪、神戸と進学、就職で関西の各地を巡っているうちに、気付けば高高卒業後の人生の方が長くなってしまいました。その間も正月に開催するSSHのクラス会と新聞部同窓会で交友を続けるだけ

でなく、卒業後のSSH事業に関しても、諸々の講演『Re:ゼロからはじまる高校数学研究』や課題研究の指導等、様々な形で携わって参りました。

特に平成23年から始めたSSHの学年を越えた大同窓会に関しては、格別な思い出があります。これはSSHのOBがお盆休み前後に高高に集まり、現役生も交えながら、社会人となったOBの何人かに現在の研究、仕事、活動等についての講演をしていただき、夜はOB達の懇親会を行うという少々風変わりなSSHの同窓会です。最初は手弁当で続けていたこの事業も、コロナ騒動以後はオンライン開催になり10年以上継続し、今では「サイエンスキャンプ」という形でSSH事業の一環になっています。このようにSSH(と数学)を通じて卒業後も長く高高とのご縁を持つことができたことは、誠に幸甚でありました。

平成も遠くなりつつある令和の今日、当時を知る教員の方々も多くが現役を退かれ、寂しさを感じる一方で、高高の同級生、先輩後輩諸氏の各方面でのご活躍を耳にするにつけ、誇らしく、あるいは頼もしく思います。また同時に、高高時代のように私自身も一層身の引き締まる思いであります。「我らの旅の終わりまで」はまだ遠いようですが、その「長き旅路」も、陰に陽に高高と共にありたいと願う次第です。

●課題研究における高校数学の学習法と研究法

<https://www.youtube.com/watch?v=aXY5D-vKFog>

●Re:ゼロからはじまる高校数学研究

<https://www.youtube.com/watch?v=7AIjzauOYKs&t=2654s>

同窓会だより

第122回高中・高高同窓会新年総会・懇親会のご案内

93期 代表幹事 川手 和義
 群馬小型運送株式会社 代表取締役社長



同窓会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

第122回同窓会新年総会の当番幹事を務めます93期代表幹事の川手と申します。新型コロナウイルス感染症の位置づけも変更され、来年1月27日(土)に第122回同窓会新年総会・懇親会を開催させていただきたいと存じます。

会場は数年ぶりにホテルグランビュー高崎(旧高崎ビューホテル)での開催を予定しております。つきましては、ご多忙のとこ

ろ恐縮ではございますが、多数の同窓生の皆様に新年総会・懇親会にご出席賜りたく、ご案内申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響でここ数年は通常通りの開催ができていませんでしたが、ようやく例年通りに近い開催ができる見通しですので、より多くの皆様にご来場いただけるよう、当番幹事として、多くの同級生と総力結集して、新年総会・懇親会準備して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

第122回 高中・高高同窓会 新年総会・懇親会	【日時】 2024年1月27日(土) 15時より
	【会場】 ホテルグランビュー高崎(高崎市柳川町70) TEL:027-322-1111
	【会費】 お一人様6,000円
	新年総会:2F HARUNA 15時より
	懇親会:3F AKAGI 16時頃より(立食形式を予定しております)



◆翠戀文庫について◆ 翠戀文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈令和4年10月1日～令和5年9月30日〉

- 著書/作者
- 青春18きっぷ殺人事件 神田 昇(64期)
- 暮らしの仏教Q&A 他12誌 佐藤 達全(65期)
- 戦後日本保守政治家の群像：自民党の変容と多様性 中島 政希(71期)
- 4次元統合黒潮圏資源学 岩井 雅夫(82期)

令和5年度高崎高校人事異動

[全日制]

[通信制]

〈退任者・転出者〉

〈新任者・再任用者〉

〈転出者〉

教頭(全) 田中 幸雄 長野原高(校長)
 英語 劔持 幸夫 定年退職
 体育 柴山 俊広 一般退職
 国語 藤生 揚亮 伊勢崎高
 社会 山田 敏行 前橋東高
 理科 中嶋 英彦 高崎東高
 数学 田中みゆき 中央中等
 英語 鈴木 崇元 県教育センター
 体育 吉田 卓弥 健康体育課
 社会 井上 貴智 高崎女子高
 養護 藤原 利彩 渋川特別支援

教頭(全) 小西 弘通 前橋西高
 英語 劔持 幸夫 再任用教員として任用
 体育 砂川 智哉 桐生商業高
 国語 六本木 恵 高経附高
 社会 米澤 育夫 高崎女子高(再任用)
 理科 平川 哲也 伊勢崎高
 数学 小林 裕貴 富岡高
 英語 長谷川太一 万場高
 体育 笠原 宗太 前橋高
 社会 高橋 瑛人 市立太田高
 養護 三上 佳奈 渋川特別支援

教頭(通) 徳江 和彦 前橋女子高(教頭)
 数学 廣神 孝彦 定年退職
 理科 根岸明日香 太田フレックス

〈転入者〉

教頭(通) 田中 利明 スポーツ振興課
 数学 廣神 孝彦 再任用教員として任用
 理科 前島 勢津 四ツ葉中等

[事務部]

〈転出者〉

事務長 浅岡 守 定年退職
 主事(育補) 木村 俊朗 渋川工業高

〈転入者〉

事務長 原澤 誠 前橋女子高
 主事(育補) 登坂 結子 前橋南高

◆◆ 掲示板 ◆◆

同期の皆様へ

49期 高橋 一夫 Tel.027-362-9043

コロナ禍のため、最終同窓会を開催することが出来ませんでした。49期同窓会の解散について昨年末会員の意思確認調査を実施、大方の賛同が得られました。会員諸兄のこれまでのご協力に深謝し、ご多幸を祈って居ります。

52期 深澤 岩吉 Tel.090-4954-7045

iwakichi1131@docomo.ne.jp

52期有志の夕食会を毎月実施。参加随意、健康維持、社会情勢、同期生、母校の状況など話題多岐、食事バラエティーに富んでいます。コロナ禍の諸制限も終り、新参加者を希求、連絡は深澤岩吉 090-4954-7045

55期 安藤 震太郎 Tel.090-4930-5161

s.ando1353-1@docomo.ne.jp

80才を機に毎月開催していた同期の居酒屋での定例会を終了しましたが、その後同期の町田実郎君が中心となり、玉村の自宅で竹林の竹の子掘りを毎年6月に集まり開催しています。来年も行いますので有志の参加待っています。

56期 湯浅 潔 Tel.090-7829-3820

56会の皆様はお元気でお越しの事と思います。令和6年の1月27日(土)には第53会の56会計年会を予定して居ります。アトラクションも行う様考えて居ります。出席お待ちしております。

58期 佐藤 義夫 Tel.090-9810-5253

薫風の去る5月10日3年越しの58期最後の同期会が30名の参加の基行われました。長野、神奈川よりの顔も見られ楽しくにぎやかな内、無事お開きとなりました。忘るる勿れこの宴、長き旅路の一時を。尚会の残金7萬5千円は育英会に寄付しました。

63期 羽鳥 修司 Tel.090-8683-0323

hatori-uonaka@dan.wind.ne.jp

63期は昨年十月「喜寿祝」を開催しました。25名の出席でした。今年は十一月の半ばに集まりたいと思います。メールのみの連絡になりますので、出席希望者は私に連絡して下さい。

71期 坂本 正樹

nana710msaka@sky.plala.or.jp

同期の集まりを復活させました。原則毎月第3土曜日18時から、井野駅改札口前のオリーブです。ほぼ皆が70才になりましたが、「余世」なんて言っていないで、賑やかに楽しみましょう。

72期 糸井 丈之 Tel.090-3149-7140

takeyuki.itoi@itoi-shoji.co.jp

72期は、古希を目前にしてラインのグループづくりに励んでいます。現在48名まで参加者が集まりました。未登録の同期生は、事務局山縣の携帯090-3140-4225まで一報ください。ライン登録の手続きをします。

76期 須郷 弘 Tel.090-3149-7299

lahaina.45.hiroshi@icloud.cou

退職してこれからの人生を考える年齢になったのでしょうか。先日翠巒祭開催されていましたね。懐かしいです。あの頃に心にあった「やりたい事」を心の底から引張り上げてこれかやり始めても良いのでは?!そう思いました。76期2024年に同期会を開催予定です。

77期 松本 基志 Tel.090-1604-4689

motoshi@able.ocn.ne.jp

卒業10年目から夏のオリンピックに合わせて同窓会を開催してきましたが、コロナ禍で延期となっていました。パリオリンピックが行われる来年は8年ぶりに同窓会を開催します。皆さん、是非ご参加下さい。

78期 高橋 浩生

第122回新年総会同窓会の後、78期会を開催します！出欠席を高橋浩生まで連絡するか「調整さん」に入力をお願いします。なお78期メーリングリストの配信が届かない方はメールアドレスを連絡してください。

80期 笹口 修男

nssasaguchi@m2.dion.ne.jp

1964年小松左京作「復活の日」を読みました。元の生活に戻ろうとする流れが世の中には見られるようになり、今年こそは同期の会を復活させたいと思いますが、今後の動向次第で判断したいと思います。温故知新

メッセージ

◆各期代表幹事◆

81期 岩井 均

htsiwai39@ybb.ne.jp

同窓会新年総会・懇親会終了後には、81期としての懇親会を予定しています。改めてご連絡させていただきますので、是非多くの皆様のご参加をお待ちしています。

82期 野口 俊康

yasunog555@icloud.com

同窓会の新年総会、ゴルフ大会などの案内を年に数回メールで発信しています。最近案内が届いていないと思われる方は、事務局の花井君(hanai@inouedoro.co.jp)までメールしてください。

85期 富田 和弘 Tel.090-3214-3097
kaz@rise-hoken.com

85期は今年と同窓会ゴルフ大会の当番が無事に終了しました。今後も定期的に同期会のコンペや懇親会を行います。皆さん都合を付けてなるべく参加し楽しみましょう。

86期 佐藤 雄一 Tel.090-1467-6151
uitisato@gmail.com

令和6年5月26日の高崎高校同窓会ゴルフ大会の幹事を、我々86期が担当します。これを期に、またみんなで集まると嬉しいです。幹事のお手伝い、同期会のお誘いなど連絡しますので、ぜひ参加お待ちしております。

87期 静 和彦 Tel.027-361-4165
shizukak@sea.plala.or.jp

コロナも一段落しました。先日の飲み会(ゴルフの前夜祭)では、遠方からの友達も参加し夜中まで大いに盛り上がりました。再来年は、同窓会のゴルフの幹事期になっています。またみんなで力を合わせて頑張りましょう。

88期 宮澤 啓 Tel.090-2311-9582
wagashi@mishoan.co.jp

和菓子職人、宮澤です。58期大木紀元先輩に「微笑庵」と命名頂き20年。職人文化を未来へ繋ぐ架け橋を目指し、150m西に新店舗を建設し、移転予定です。88期の架け橋にもなれたら嬉しいです。気軽にお立ち寄り下さい。

91期 市川 英久 Tel.090-7105-7406

h_ichikawa@yuuhachi.co.jp

現在、同期111名のライングループで情報共有しています。また、同期ゴルフコンペも3組程で実施しています。詳しくは市川までお問い合わせ下さい。来年の新年総会後も同期会を予定中、奮ってご参加ください。

92期 横田 裕正 Tel.090-8720-3313

h-yokota@heiwakouki.co.jp

92期の皆さんこんにちは。第121回同窓会総会・懇親会の幹事期は大変お疲れ様でした。当日は同期100名が集まり無事に開催することが出来ました。今年も多くの同期と交流を深めたいと思います。2024年1月27日同窓会懇親会の後に同期会を予定しています。詳細はLINE(高崎高校92期)にて案内させていただきます。是非数多くの同期の参加をお待ちしております。

93期 川手 和義 Tel.090-9322-9594
kazuyoshi@gku.group

2024年1月27日(土)に我々93期が幹事として同窓会新年総会を実施します。新型コロナウイルス感染症の状況も変わり、数年ぶりにホテルグランビュー高崎(旧高崎ビューホテル)で開催予定ですので、多くの方に参加していただけるよう、同期で総力結集して頑張りましょう。

94期 廣瀬 一成 Tel.080-5471-5207
kazushige.hirose@gmail.com

94期では、Facebookグループで、交流しています。“94期高崎高校”などのキーワードで、ぜひ探してください。今後も、ゴルフをふくめ様々な行事を企画しています。

95期 清水 正樹 Tel.090-4820-5422
masaki-s@shimizu-shoji.com

95期の皆さん、長らくのご無沙汰です。今回、同期同窓会を企画しております。この機会にまた交流を深めていきたいですね。LINE、Facebookでも連絡できます。メールで連絡をいただければご案内いたします。お待ちしております。

通信制 山本 好一 Tel.090-2543-3014

定期総会を令和6年2月18日に高崎高校会議室で行います。その後、懇親会を予定しています。多くの会員の出席をお願いします。

◆公益財団法人「翠巒育英会」◆

担当者:立見 友孝(63期)

[活動報告]

- 毎年度同窓生の皆様にはご厚志をいただき心より感謝申し上げます。
- 57期竹内諒(まこと)氏は83歳にてご逝去なさいましたが、生前より母校のことを強く思っておられたとのことで、遺族の方より、遺志に基づいた遺産の一部を育英会へのご寄付いただきました。高額のご寄付ありがとうございました。
 - 毎年度継続して多額のご厚志は60期高橋昭雄氏、67期串田紀之氏より頂いております。
 - 同期会の高齢化に伴い活動を辞め、会の残資産のご寄付は57期に続き58期(代表幹事佐藤 義夫氏)、61期の同窓生一同様よりいただきました。
 - 同窓生よりは毎年度1,600名余の皆様のご寄付をいただいております。現存する同窓生23,000名での出資率は7%となっております。尚一層のご理解を賜りご厚志をお願い申し上げます。同窓会報届

- きましたら同封の振込用紙をご利用下さい。
- ご寄付振込口座は 群馬銀行 高崎田町支店 普通0756241 ザイ スイランイクエイカイ にて随時受け付けております。確定申告での寄付金控除対象になっておりますので、証明書を送らせていただきます。連絡先:立見携帯090-1865-4383までお願いいたします。
 - 本年度の奨学生は6名です。文武両道にて頑張る決意を頂いております。3年生まで計17名に奨学金給付を行います。累計では164名となりました。
 - 母校生徒の文武両面の活躍に激励金を支給しております。従前は全国大会出場に限定しておりましたが、金額面で実情に合わず少額でもあり、資産及び寄付金で賄っていけることから、教育奨励事業規則を増額改訂し、令和5年4月より関東大会以上に広げ支給致します。今後も生徒諸君の文武両面での活躍をバックアップしていきます。
常務理事 立見 友孝(63期)

令和4年度事業報告

令和4年 4月25日	第1期分奨学金交付【400,000円】 (3年生5名・2年生5名)
5月27日	第1回 評議員会(書面による評決) 【令和3年度 事業報告・決算報告、監査報告】 第1回 理事会(書面による評決) 【令和3年度 事業報告・決算報告、監査報告】
6月30日	令和4年度奨学生採用選考会(申請者8名・採用6名)
7月8日	奨学生採用通知書伝達式(1年生5名)
7月8日	第1期分奨学金交付【240,000円】(令和4年度採用1年6名)
8月25日	第2期分奨学金交付【640,000円】(1~3年生16名)
11月12日	第2回理事会開催 R4.4.1~R4.10.31までの業務執行報告
12月5日	第3期分奨学金交付【640,000円】(1~3年生16名)
令和5年 1月28日	感謝状贈呈(ピエント高崎にて) 【敬称略】真下 昇(56期)、57期代表幹事飯島 勇、高橋 昭雄(60期)、立見 友孝(63期)、小川 静夫(65期)、串田 紀之(67期)、吉野 勉(69期)、須野原 豊(70期)、中村 康晴(73期)、新井 啓(80期)、91期新年総会代表幹事市川 英久、84期同窓会ゴルフ大会代表幹事粕川 泰彦、匿名希望1名
3月27日	第2回 評議員会(書面による評決) 【令和5年度事業計画案、収支予算案について】 第3回 理事会(書面による評決) 【令和5年度事業計画案、収支予算案について】
3月31日	県庁生活子ども部県民活動支援・広聴課公益法人係 【令和5年度事業計画案、収支予算案、資金調達・及び設備投資の見込みについて】提出
5月23日	令和4年度会計監査実施
6月2日	第1回 理事会 【令和4年度 事業報告・決算報告、監査報告】
6月17日	第1回 評議員会 【令和4年度 事業報告・決算報告、監査報告】

*令和4年度の決算書につきましては
同窓会ホームページにてご確認いただけます。

第56号掲載後 多額厚志寄付者ご芳名(敬称略)

期	ご芳名	期	ご芳名
56期	真下 昇	59期	高橋 昭雄
60期	竹内 滋	65期	小川 静夫
67期	串田 紀之	69期	厚井 達夫
69期	吉野 勉	70期	須野原 豊
79期	上原 政昭	80期	新井 啓
91期	第120回新年同窓会総会幹事(代表幹事市川 英久)		
92期	第121回新年同窓会総会幹事(代表幹事横田 裕正)		
57期	57期同窓生一同		
58期	58期同窓生一同(代表幹事佐藤 義夫)		
85期	第29回同窓会ゴルフ大会幹事(代表幹事富田 和弘)		
61期	61期同窓生一同		

翠巒育英会年間行事計画

月	2023年度(令和5年度)
3月	令和5年度予算計画書作成 令和5年度予算計画書県庁提出(オンライン)
4月	決算整理・決算県公益法人課確認 奨学金支給2・3年生11名(4・5・6・7月分)
5月	決算監査・決算理事会開催・決算評議員会開催 法人市民税、県民税減免申請提出 納税証明書取得(税務署、県税、市税) 新1年生奨学生募集(高校に依頼)
6月	奨学生採用選考会 決算県庁公益法人課提出(オンライン)
7月	新1年生奨学生採用・伝達式開催 奨学金支給1年生6名(4・5・6・7月分)
8月	奨学金支給全学年17名(8・9・10・11月分)
10月	中間報告理事会開催
12月	奨学金支給全学年17名(12・1・2・3月分)
1月	同窓会総会に向けて感謝状作成 同窓会新年総会開催出席、感謝状贈呈
3月	決算準備、行事まとめ整理準備 次年度事業計画書、収支予算書準備

第29回高崎高校同窓会ゴルフ大会結果報告



- 開催日 2023年5月21日(日)
- 開催場所 サンコー72カントリー
- 参加人数 199名
- 当番幹事期 85期



●**団体戦**(各期上位4名のトータルスコア)
《グロスの部》

順位	期	GROSS
優勝	81期	319
準優勝	89期	338
3位	92期	341

《ネットの部》

順位	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	89期	341	49.2	291.8
準優勝	73期	362	69.6	292.4
3位	81期	330	37.2	292.8

●**個人戦** 《コース別ベストグロス》
(個人戦は前半9ホール新ペリア方式ネット戦)

順位	氏名	期	GROSS
INコース	渡邊 俊裕	81期	37
OUTコース	吉田 和人	81期	36

《ネットの部》

順位	氏名	期	GROSS	HDCP	NET
優勝	原田 和之	73期	79	9.6	69.4
準優勝	堀口 順	73期	84	13.2	70.8
3位	稲田 智秀	80期	83	12.0	71.0



個人戦ネットの部優勝原田和之様



団体戦グロスの部優勝81期



団体戦ネットの部優勝89期

皆様のご協力のもと、素晴らしい大会を開催できました。大会に携わった皆様に心から感謝いたします。
85期幹事一同 執筆者:富田 和弘

母校だより

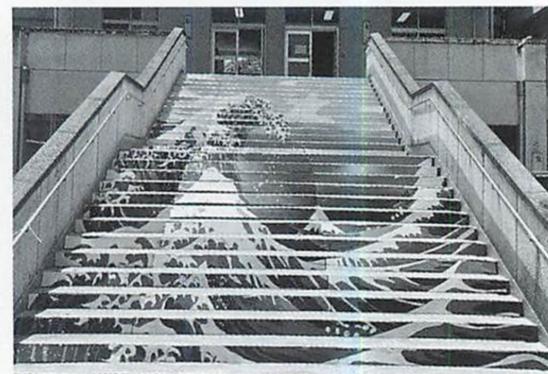
6月3日(土)・4日(日) **第71回 翠巒祭** テーマ「Imagic!～想像は魔法だ～」



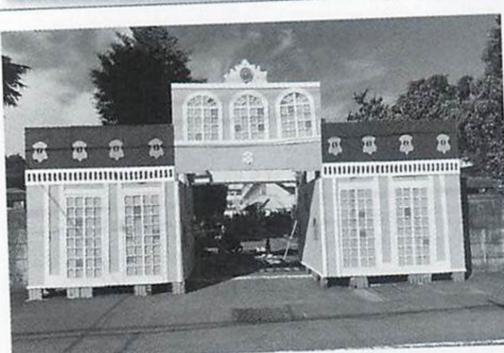
巨大壁画(金閣寺)



テープカット



エントランスグラフィックス



アーチ(ヴェルサイユ宮殿)



一般公開終了(グランドフィナーレ)



場内の様子

少しでもコロナ禍以前の翠巒祭へ。そして新しい時代の翠巒祭を。翠巒祭実行委員長として常に意識していたことでした。昨年度の制限付き有観客開催を受け、より多くのお客様に翠巒祭を楽しんでもらうにはどうしたら良いか、私達の後の代がより良い翠巒祭を作るために何が必要か、連日チーフ陣で多くの議論を交わしました。今年はチケット制の継続に加え、中学生の入場可能、コロナ禍以後は無くなってしまった高高バスの復活など、新しい取り組みを試す翠巒祭になりました。期待と不安で迎えたテープカットではファンファーレになった瞬間

に、翠巒祭に向けて準備した1年間の思い出が溢れ出し、言葉にならない感動で胸がいっぱいになりました。実行委員全員の努力が実り、第71回翠巒祭を無事大成功のうちに終えることができました。

支えてくれた副実行委員長の2人、生徒会長、チーフ陣、実行委員、一般生徒、先生方、卒業生の皆様、保護者の皆様にご心から感謝しています。本当にありがとうございました。

実行委員長 3年 花田 智紀

活躍部活動紹介

- 運動部・学芸部**
- 【ソフトテニス部】 令和5年度 全国高等学校総合体育大会出場 片貝 匠・田村 真人ペア
 - 【弁論部】 第47回全国高等学校総合文化祭 弁論部門 奨励賞 土屋 拓都
 - 【囲碁・将棋部】 第47回全国高等学校総合文化祭 将棋大会 団体出場 個人 矢内 悠翔 決勝トーナメント出場
第26回全国高等学校俳句選手権大会 団体出場 個人 入選 金澤 英明
 - 【文芸部】 第47回全国高等学校総合文化祭 文芸部門(詩) 出場 白石 想一郎
第38回全国高等学校文芸コンクール 俳句部門 出場 植原 拓巳
 - 【物理部】 「マイプロジェクトアワード」マイプロジェクトアワード特別賞(全国2位相当)
「ロボカップジュニア・ジャパンオープン」 World League サッカー Light Weight 全国10位
World League レスキューメイズ 全国6位
「STEAM JAPAN AWARD」idea賞 2件
「国際学生科学技術フェア(ISEF)」アメリカ・ダラスで開催。日本代表として出場。
「全国SSH生徒研究発表会」科学技術振興機構理事長賞(全国2位相当)
「ぐんまプログラミングアワード(GPA)」※全国から大学生まで参加可能なコンテスト。
アプリケーション部門 優勝 IoT部門 企業賞
「Q-1～U-18が未来を変える 研究発表SHOW～」ナイス探究賞(全国ベスト16相当・ABCテレビ出演)
 - 【SSH部】 「中高生情報学コンテスト研究コンテスト」
中高生研究賞奨励賞・初等中等教育委員会委員長賞(全国4位相当) 中高生研究賞奨励賞 入選2件
「全国物理コンテスト物理チャレンジ」優良賞(国際物理オリンピック日本代表候補者選出)
「坊ちゃん科学賞コンテスト」入賞3件・佳作2件

9月22日(金) 第77回 定期戦 史上最高記録達成 8連覇!!

〈会場：高崎高校〉

第76回定期戦得点表

部対抗		種目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		駅伝	0	9
		綱引き	6	3
		玉入れ	3	6
		ソフトボール	6	3
		長縄跳び	2	4
0	6	卓球	6	3
6	0	陸上競技	3	6
6	0	ソフトテニス	6	3
6	0	バレーボール	6	3
6	0	バスケットボール	4	5
0	6	バドミントン		
0	6	剣道		
6	0	弓道		
6	0	サッカー		
6	0	ラグビー		
0	6	硬式野球		
3	3	軟式野球		
6	0	テニス		
51	27	小計	42	45

総合計	高高 93	前高 72
-----	-------	-------

★これまでの戦績は高高46勝、前高24勝、引き分け3です



綱引き



応援部顔合わせ



優勝トロフィー授与



結果発表

自分たちの勝利を信じていたが、実際に勝つことができ安堵した。駅伝では3タテされてしまったが、昨年3タテされた綱引きで1、2年生が勝つことができ、高高生の力強さを感じた。正直、2週間程前は不安を感じていた。しかし、本番が近づくとつれ実力が爆発的に上がっていくのを感じた。

9連覇のかかる来年は、今年よりも緊張感が高まる戦いになると思う。そこで、実行委員を中心に雰囲気盛り上げ、勝利へと繋げてほしい。

実行委員長 3年 清水 惺也

卒業生合格者数(全日制) ()内は現役

大学	年次	5年	4年	令和3年	大学	年次	5年	4年	令和3年	大学	年次	5年	4年	令和3年
北海道大		7(4)	8(5)	10(10)	金沢大		11(10)	5(4)	14(12)	中央大		59(47)	31(19)	66(54)
東北大		26(24)	22(22)	22(22)	信州大		5(3)	3(3)	7(3)	明治大		66(56)	76(61)	57(39)
筑波大		6(5)	8(8)	4(3)	名古屋大		1(1)	3(2)	0(0)	上智大		19(16)	7(4)	8(6)
千葉大		9(9)	8(7)	6(3)	京都大		3(2)	4(4)	6(3)	立教大		26(25)	21(14)	14(11)
群馬大		18(16)	25(21)	34(31)	高崎経済大		9(9)	12(10)	13(12)	青山学院大		13(11)	13(11)	17(13)
埼玉大		8(8)	4(4)	10(8)	東京都立大(首都大)		1(1)	2(2)	2(2)	法政大		53(51)	48(36)	35(24)
東京大		8(7)	11(5)	3(3)	国公立大医学部医学科		13(10)	7(5)	10(7)	日本大		26(23)	33(24)	58(49)
一橋大		5(5)	2(2)	0(0)	慶應大		20(18)	20(13)	14(8)	東京理科大		57(39)	63(56)	50(39)
東京工業大		2(2)	2(2)	3(3)	早稲田大		36(32)	38(32)	31(24)	芝浦工業大		53(48)	59(45)	70(54)
東京外国語大		1(1)	1(1)	3(3)						明治学院大		3(3)	7(6)	13(9)
横浜国立大		5(3)	6(6)	9(8)						同志社大		1(1)	4(4)	9(2)
新潟大		12(12)	19(17)	18(18)						立命館大		17(15)	28(25)	36(26)

事業報告

「先輩、教えてください！」

在校生が県内の同窓生の皆様の職場にうかがい、職業に関する体験をさせていただき進路学習事業が、5年前より始まりました。この事業は、在校生が講義や見学、実習を体験することで進路意識を高め、彼らが将来社会に貢献できる人材となることを促す企画です。今年度も、生徒たちが事前に作成した「ビジネスプラン」について、訪問当日に同窓生の方々からご指導いただくという試みを行いました。受け入れて様々にご指導くださった同窓生の皆様に厚く御礼申し上げます。

なお、今年度は7月5日(水)に実施され、当日は本校2年生約280名が42箇所の職場を訪問しました。今回受け入れてくださった3分野の同窓生の所感をご紹介します。

製造

株式会社小林製作所

「私にとっても楽しい時間」

取締役社長 小林 秀晴(91期)

現在ちょうど我が長男次男も高高に在籍しており、息子と同世代の学生たちと会話ができるのを私も楽しみにしています。弊社はプラスチック製品の製造を生業としておりますが、毎年繰り広げられる彼らの適格かつ辛辣な質問に、こちらがタジタジとなることも珍しくありません。ビジネスプランにおいても、特に今年は自由な着想からおもしろいアイデアが産まれており、学生たちの柔軟な感性に驚かされました。

また来年も頼もしい後輩の来訪を待っています。



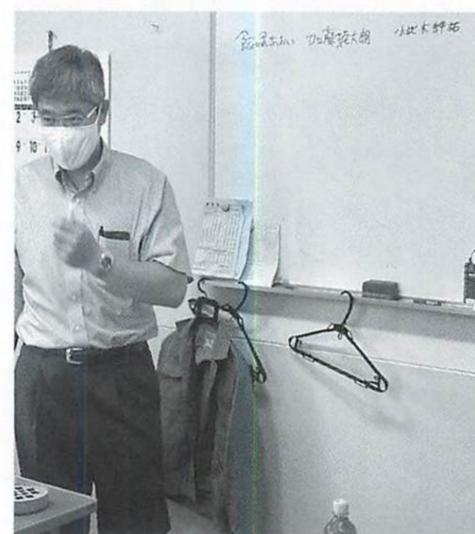
建設

神宮工業株式会社

「タカタカイズム」

代表取締役 神宮 嘉一(88期)

国内外を問わず各方面に進む高高生は、そこで必ず指導的立場になるはず。弊社では地元建設業への理解を深めてもらうのと同時に、そんな彼らが大きく羽ばたいていくようエールを送らせてもらいました。余談ですが毎年チャットの時間を設け、その中で「高高の良い所、悪い所」を必ず質問します。すると決まって「良いところは男子校」「悪いところは女子がいな」と返ってきます。まさに世代を超えた「タカタカイズム」が交差する瞬間です。



教育・研究

群馬県立土屋文明記念文学館

「新鮮な意見交換」

特別館長 小笠原 祐治(75期)

同窓の大先輩土屋文明(8期)の業績を記念して建てられた文学館を、現役の生徒が学びの場として活用してくれたことを大変うれしく思っています。理系の皆さんでしたが、文学館の運営やあり方について、新鮮な意見交換をすることができました。服の再利用の可能性を自動的に識別する装置を開発するというビジネスプランも話してくれましたが、喫緊の困難な課題に果敢に挑戦しようとする姿に、高高の3F精神を感じました。





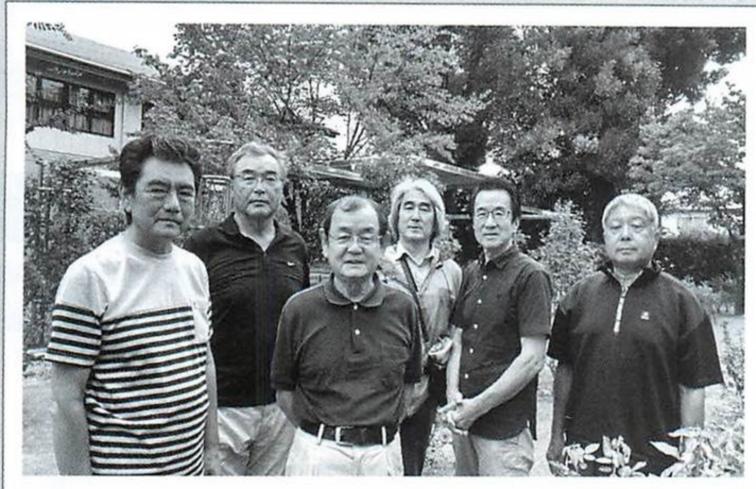
若い卒業期でまだ代表幹事、常任理事、理事等の役員未決定期に補助金

役員未決定、或いは同窓会未開催等で困っている期には、初回案内通知にかかる費用を同窓会にて支援致します。対象期の有志は事務局（TEL.027-320-6024）にご連絡ください。

指月庭のバラを年間維持管理する『指月庭倶楽部員』を募集しております

母校120周年事業として指月庭は140本の新品種バラにて鮮やかに復活しました。

現在、高橋成東会長以下10名にて活動、春～秋にかけて毎月第2・4日曜午前9時より手入れを行っています。時間の取れる方は道具持参にて参加して頂きたいと思ひます。



写真左より高橋成東・指月庭倶楽部会長(71期)、丸山徹(71期)、八木薫(71期)、山口巖(73期)、坂本勝則(71期)、櫻澤勉(71期)



《アメリカ派遣の高田君に奨励金》

「第66回日本学生科学賞(読売新聞社主催)」高校の部で最高賞の内閣総理大臣賞を受賞した物理部3年生の高田悠希(はるき)君が、5月にアメリカで行われた世界最大の学生科学コンテストISEF(国際学生科学技術フェア)に派遣されました。

5月8日に校長室で高田君を壮行し奨励金を渡しました。

写真左より教育後援会の松本裕文(67期)会長、翠巒育英会の串田紀之(67期)理事長、高田悠希君、小林智宏(81期)学校長、同窓会の清水正郎(75期)副会長、翠巒育英会の立見友孝(63期)常務理事、物理部顧問の岡田直之教諭。



《合宿所(3F会館)の厨房施設改修を支援》

母校の合宿所(3F会館)は、コロナ禍で3年間使用できなかったこともあり、いたみが激しく、特に厨房施設は衛生面、安全面でも使用できる状況ではありませんでした。

学校から夏の合宿に使用したいため厨房施設の改修の支援依頼があり、7月13日の第1回理事会で承認をいただき、同窓会でも支援をいたしました。

写真左が同窓会の坂本正樹(71期)会長、右が小林智宏(81期)学校長。



《次世代会員意見交換会の開催》

新年総会やゴルフ大会などの同窓会活動へ若手会員(新年総会幹事期未経験会員)の参加拡大を図るため、次世代会員意見交換会を新たに計画し、開催いたしました。

今年の新年総会の幹事期をつとめた横田裕正(92期)代表幹事の協力を得て、9月20日にホテルグランビュー高崎で93期から106期までの若手会員26名と花井好機(82期)本部幹事長が参加し、「同窓会活動を知る良い機会となった。」「今後も定期的で開催していただきたい。」との意見もあり、次年度も開催を検討してまいります。



令和5年 褒章・叙勲等受章者 (敬称略)

瑞宝小綬章 岡田 稔(52期)	瑞宝双光章 麻生 悦造(53期)	財務大臣表彰 横田 貞一(65期)
瑞宝双光章 青木 彦治(52期)	瑞宝小綬章 田端 穰(54期)	文部科学大臣表彰 村山 利之(72期)
瑞宝双光章 小島 敏夫(52期)	瑞宝小綬章 入沢 正光(67期)	黄綬褒章 一倉 史人(84期)
瑞宝双光章 飯嶋 重信(53期)	旭日中綬章 吉田 茂(72期)	紺綬褒章 内川 将伯(84期)
瑞宝双光章 池内 嵩(53期)		

◆各地区同窓会 活動状況◆

◆碓氷安中翠鸞会

会長 田中 茂(71期)

本会は1981年の野球部選抜甲子園初出場を応援するために旧安中市の「高中・高高安中会」として発足し、毎年開催してきました。2012年に旧松井田町の「松井田翠鸞会」と合併し、現在の名称になりました。

合併後3回「並木苑」にて総会を開いた後、コロナ禍もあり10年ほど活動がありませんでしたが、令和5年10月28日に再開し、毎年開くことになりました。

幕末の安中藩主板倉勝明公は文武両道政策(安政遠足の実施、安中造士館の設置など)を推し進め、文教都市としての基礎を築きました。

1904(明治37)年4月1日、群馬県立安中中学校(現・安中総合学園高校)が設立され、後に高崎中学校安中分校となった頃から、

安中市でも高崎高校精神が芽生えていました。本会もそれらを継承すべく活動しています。



◆藤岡翠鸞会

事務局 福島 直人(66期)

2023年6月24日(土)午後4時より、藤岡商工会議所において、藤岡翠鸞会第17回総会ならびに翠鸞会コンサートが行われました。

同窓会本部より来賓として同窓会長の坂本正樹氏(71期)など数名をお迎えし、総会が行われ、コンサートは会員の奥様方など同伴で楽しく鑑賞致しました。コンサートは、中澤照雄氏(68期)の紹介により、埼玉県で精力的に活動しているCouCouの皆様にお預かりし、約10曲の多彩な音楽を演奏していただきました。

その後来賓の方々を交え、懇親会が行われ、歓談をするともに旧交を温めました。



◆東京同窓会

事務局長 大沢 貴頼(83期)

令和5年6月9日には、明治記念館にて幹事会が開催され、52名の会員が集まり、令和4年度の活動報告、会計報告、新任の常任幹事に鈴木優(94期)さん、梅山裕史(98期)さん2名の選出に関して全て承認されました。

今年度は、8月に暑気払い懇親会、さらに新たに若手会が発足し何度か若手のみで会合を開催しています。また、翠鸞編集会議は柴山温行編集長(73期)を中心に編集委員のみが集まり翠鸞69号の制作を行いました。10月27日の総会時に無事に配布することが出来ました。会員の皆様には随時発送致しますのでお楽しみにして下さい。

10月27日の総会では、母校の小林智宏校長先生(81期)、母校同窓会の坂本正樹会長(71期)、前高京浜同窓会今井敏会長、群馬県東京事務所富澤孝史会長、群馬県人会連合会古谷進副会長をゲストにお招きし、58期から121期までの総勢88名にご参加頂きました。

日本歯科医師会会長の高橋英登(69期)先輩による「歯科医療が日本を救う」の特別講演では、大変有意義な話を聴くことが出来ました。懇親会を通じ同窓生で名刺交換や近況報告などを

する事により、東京同窓会会員一同がより一層一致団結することが出来る会となりました。

最後は毎回恒例ではありますが、93期の幹事期の皆さんが音頭をとり、校歌と翠鸞を合唱し閉会となりました。

東京同窓会は、イベント盛り沢山の楽しい同窓会です。現在、会員を大募集中です。皆様からのご連絡をお待ちしています。



高高同窓会 予算決算報告

令和4年度 通常会計決算 (令和4年1月1日～令和4年12月31日)

(単位:円)

収入の部

費目	予算額	決算額	増減	備考
繰越金	304,250	304,250	0	前年度から繰越金
入会金	2,852,000	2,915,800	63,800	全日制282名(@9,900) 通信制62名(@2,000)
維持会費	8,000,000	8,496,287	496,287	2,714名
雑収入	300,000	1,607,721	1,307,721	第120回新年総会残金・ Webサイト協賛金・寄付ほか
合計	11,456,250	13,324,058	1,867,808	

(単位:円)

支出の部

費目	予算額	決算額	残額	備考
会議費	1,000,000	1,146,748	△146,748	新年総会準備ほか
祝賀費	350,000	319,165	30,835	叙勲記念品・東京同窓会等祝金
餞別費	180,000	257,500	△77,500	令和3年度末離任職員餞別
慶弔費	120,000	66,000	54,000	供花代
通信印刷費	370,000	386,246	△16,246	維持会費納入礼状・督促状・ 翠巒会館電話代ほか
旅費	250,000	60,000	190,000	東京同窓会出席者旅費
同窓会報費	4,380,000	4,546,328	△166,328	同窓会報発行費・発送費ほか
事務費	1,700,000	1,702,236	△2,236	事務職員人件費・事務用品ほか
母校支援費	1,700,000	1,267,404	432,596	
①同窓会長賞	100,000	39,754	60,246	賞状・文鎮ほか
②入学卒業記念品	700,000	516,870	183,130	証書ファイル・ネクタイピン
③諸活動補助	900,000	710,780	189,220	SSH活動補助ほか
資料整理費	100,000	100,200	△200	Webサイト管理費ほか
補助費	350,000	396,800	△46,800	翠巒体育会補助・サーマルカメラ
環境整備費	500,000	805,114	△305,114	指月庭およびバラ園の維持 管理費・歴代会長等表示銘板
雑費	300,000	269,995	30,005	データ投下代
特別会計積立	100,000	1,500,000	△1,400,000	特別会計への積立金
予備費	56,250	0	56,250	
合計	11,456,250	12,823,736	△1,367,486	

収入総額 13,324,058円 - 支出総額 12,823,736円 = 差引残額 500,322円 (次年度へ繰越し)

特別会計

収入の部	前年度繰越金	7,301,408円
	令和4年通常会計から	1,500,000円
	雑収入(名簿発行会社からの還元金・ 新入生記念誌売上げ代ほか)	4,106,837円
合計		12,908,245円
支出の部	母校充実費(第一体育館暗幕交換)	2,279,200円
合計		2,279,200円

収入総額 12,908,245円 - 支出総額 2,279,200円 = 差引残額 10,629,045円 (次年度へ繰越し)

令和5年度 通常会計予算 (令和5年1月1日～令和5年12月31日)

(単位:円)

収入の部

費目	今年度予算	前年度予算	差引増減	備考
繰越金	500,322	304,250	196,072	前年度繰越金
入会金	2,852,000	2,852,000	0	全日制280名(@9,900) 通信制40名(@2,000)
維持会費	8,500,000	8,000,000	500,000	3,000名(常任理事10,000、 理事5,000、一般2,000)
雑収入	247,678	300,000	△52,322	Webサイト協賛金・記念品収入・ 名簿収入・利息ほか
合計	12,100,000	11,456,250	643,750	

(単位:円)

支出の部

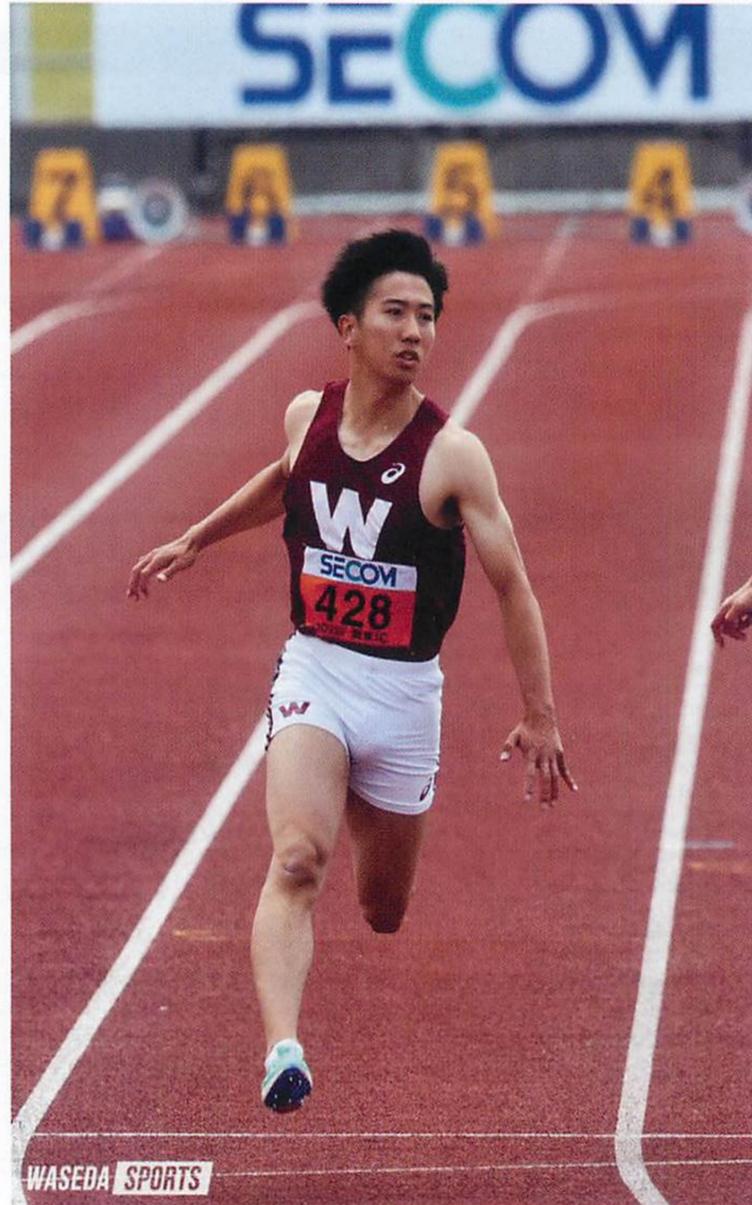
費目	今年度予算	前年度予算	差引増減	備考
会議費	1,200,000	1,000,000	200,000	
①会議費	700,000	600,000	100,000	常任理事会・理事会・ 本部幹事会ほか
②総会費	500,000	400,000	100,000	新年総会準備費ほか
祝賀費	350,000	350,000	0	叙勲・東京同窓会ほか
餞別費	200,000	180,000	20,000	令和4年度末離任職員餞別
慶弔費	100,000	120,000	△20,000	供花代
通信印刷費	400,000	370,000	30,000	事維持会費・理事会通知・ 翠巒会館電話代ほか
旅費	200,000	250,000	△50,000	東京同窓会、関西同窓会 出席者旅費ほか
同窓会報費	4,700,000	4,380,000	320,000	同窓会報発行費および発送費
事務費	1,700,000	1,700,000	0	事務職員人件費・事務用品ほか
母校支援費	1,700,000	1,700,000	0	
①同窓会長賞	100,000	100,000	0	賞状・文鎮ほか
②入学卒業記念品	700,000	700,000	0	証書ファイル・ネクタイピン
③諸活動補助	900,000	900,000	0	SSH・部活動補助・ 演奏会等生花
資料整理費	100,000	100,000	0	Webサイト管理費ほか
補助費	400,000	350,000	50,000	翠巒体育会補助ほか
環境整備費	600,000	500,000	100,000	指月庭維持管理費ほか
雑費	300,000	300,000	0	データ投下代
特別会計積立	100,000	100,000	0	
予備費	50,000	56,250	△6,250	
合計	12,100,000	11,456,250	643,750	

特別会計

収入の部	前年度からの繰越金	10,629,045円
	令和5年度通常会計より	100,000円
	雑収入(新入生記念誌売上げ代ほか)	280,955円
合計		11,010,000円
支出の部	母校充実費(施設・設備整備費)	2,000,000円
	次世代会員拡大等活動費	1,000,000円
合計		3,000,000円

収入総額 11,010,000円 - 支出総額 3,000,000円 = 差引残額 8,010,000円 (令和5年末)

学生日本一の井上直紀君(121期/早稲田大学2年)



2023学生個人選手権100m優勝 ©早稲田スポーツ新聞会

同窓会維持会費納入、翠巒育英会ご寄付のお願い

同封の振込取扱票により納入をお願い致します。郵便局振込は、振込手数料が掛かりますので、コンビニでの振り込み、QRコード決済、クレジットカード支払をおすすめ致します。



群馬県立高崎高等学校 同窓会報

【発行人】 坂本正樹(71期)
【編集委員長】 新井重雄(78期)
【編集委員】 田端 稷(54期) 波多野重雄(77期)
竹内 聡(79期) 花井好機(82期) 有田喜一郎(88期)
井上幸己(89期) 木村拓哉(100期) 菊地将史(107期)

編集 後記

同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第57号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださりまして、誠にありがとうございました。(編集委員)

【編集委員からのお願い】

同窓会報1号(1967年)～6号(1972年)をお持ちの方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

群馬県立高崎高等学校 同窓会事務局

〒370-0861 群馬県高崎市八千代町2-4-1 TEL&FAX 027-320-6024 Eメール:suiran@email.plala.or.jp